

**看護教育における学生の主体性を育む授業に  
関する文献検討**

内田 浩江

**In a class to nurture student's independence in nursing education  
Review of documents concerning**

Hiroe Uchida

姫路大学看護学部紀要

第10号

平成31年 3月31日発行



# 看護教育における学生の主体性を育む授業に 関する文献検討

内田 浩江<sup>\*1</sup>

## In a class to nurture student's independence in nursing education Review of documents concerning

Hiroe Uchida<sup>\*1</sup>

### 要旨

本研究の目的は、看護教育における学生の主体性を育む授業方法について、先行論文から得られた知見を整理し、課題を明らかにすることである。

対象論文は、論文データベースの医学中央雑誌記事索引Web版(ver.5)を用いて、キーワードを「看護教育」「学生」「主体的」「評価」とし、国内文献を2013年～2018年検索した。2018年7月、講義・演習に関する文献39件が該当した。そのうち授業方法・技法導入に関する文献は13件であり、能動的学修(アクティブラーニング)の技法として、【ポートフォリオ】、【PBL-T, TBL, IBL】、【協同学習】、【ブレンディッドラーニング型授業】の4つに分類された。授業方法を工夫し実践した評価に関する文献7件、課題シートの活用5件、振り返りシートの活用4件、社会人学生対象3件、自己評価・レポート評価2件、OSCE科目評価2件、授業評価2件、システム評価1件であった。

主体性を育む学習方法である『アクティブラーニング』を取り入れた授業実践は、看護学生の主体性を育むことに関与すると考え、授業実践を適切に評価し、複雑な課題に対応できる資質・能力を高めるために更なる授業方法・評価方法の検討が課題であることが示唆された。

キーワード: 「看護教育」「学生」「主体的」「評価」

### Abstract

The purpose of this research is to organize the knowledge gained from the preceding thesis and to clarify the problem about the class method of nursing education in nursing education.

For the target dissertation, we set the keywords as “nursing education” “student” “subjective” “evaluation”, using the median central journal article index Web version (ver.5) of the dissertation database, search the domestic literature from 2013 to 2018 did. In July 2018, 39 articles on lectures and exercises were found. Among them, 13 articles on teaching method / technique introduction are 13, and [Portfolio], [PBL-T, TBL, IBL], [Collaborative learning], [Blended Learning type lesson] as a technique of active learning It was classified into four. 7 articles on evaluations that devised and practiced teaching methods, 5 cases utilizing problem sheets, 4 cases utilizing reflection sheet, 3 subjects for social students, 2 self assessment / report evaluations, 2 OSCE course evaluations, 2 lesson evaluation 2cases, system evaluation 1case.

Thinking that class practice incorporating “learning”, which is a learning method for nurturing subjectivity, is involved in fostering the nursing student's ownership, appropriately evaluating class practice, and possessing qualities and abilities capable of coping with complex subjects It was suggested that examination of further lesson method evaluation method is a task to raise. is an issue to raise.

Key words: “nursing education” “student” “subjective” “evaluation”

\*1: 姫路大学看護学部

\*1: Himeji University School of Nursing

## I. 緒言

我が国における大学教育の課題について、2012年8月、文部科学省中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ－」では、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である（文部科学省、2012）。これを受け、我が国では、アクティブラーニングの普及に拍車がかかっている。質的転換答申では、アクティブラーニングを、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた授業・学習法の総称」と定義し、それによって「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」とされている（松下、2016）。

また、日本看護系大学協議会は平成29年度、教育評価検討委員会が中心となり、看護学士課程における看護実践能力及び、卒業時到達目標や教育のあり方の再検討を行い、I群に1項目のコンピテンシーとV群に1項目のコンピテンシーを加えている（一般社団法人

日本看護系大学協議会事務局、2018）。コンピテンシーとは、単なる知識や技能だけでなく、様々な心理的・社会的リソースを活用して特定の文脈の中で複雑な課題に対応することが出来る力（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構、2016）である。看護者には様々な場面で人々の身体状況を観察・判断し、状況に応じた適切な対応が出来る看護実践能力が求められている（文部科学省、2017）。看護師として、複雑な課題に対応できる資質・能力を高めるために看護教育の学修環境を整え、主体的な看護学生を育てることが望まれる。

## II. 研究目的

我が国は、急速に進展するグローバル化、少子高齢化による人口構造の変化、地域間の格差の広がりなどの問題が急速に浮上している。そのような中、社会に貢献していくには、想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力が求められる。

文部科学省中央教育審議会は2012年「学士課程の質

的転換 答申」において、個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。大学教育の質的転換を実践していくには、学生の主体的な学修を支えるための教育方法の転換と教員の教育能力の涵養が必要であるが、それには研究能力の一層の向上が求められる（文部科学省、2012）。将来、看護師となる看護学生が、問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める能力が求められる。主体的に行動出来るように、看護教育の場で、学生の主体性を引き出す授業についてどのような取り組みが行われているのか、またその効果と課題を先行文献より概観し、内容を分析し、学生の主体性を育むための教育方法と今後の課題を見出すことを目的とした。

## III. 研究方法

### 1. 研究デザイン

文献研究

### 2. 文献収集方法

対象文献については、論文データベースの医学中央雑誌記事索引Web版（ver.5）を用いた。キーワードを「看護教育」「学生」「主体的」「評価」とし、国内文献を2013年～2018年検索した。2018年7月、72件の論文があり、抽出された文献のうち講義・演習に関する文献39件を対象とした。

### 3. 分析方法

対象論文を精読し、保健師課程・助産師課程・養護教諭養成課程の授業は、個人の意味による選択の受講であるため、看護学生は看護師課程の講義・演習を受講する学生を対象とした文献39件を内容分析した。

### 4. 倫理的配慮

文献内容抽出の際、論旨及び文脈の意味を損なわないよう最大限配慮した。

### 5. 用語の定義

アクティブラーニングは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた授業・学習法の総称」。

アクティブラーニングの一般的特徴

- (a) 学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
- (b) 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
- (c) 学生は高次の思考（分析、統合、評価）に関

わっていること

- (d) 学生は活動（例：読む，討議する，書く）に関与していること
- (e) 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること（松下，2015）

#### IV. 研究結果

講義・演習に関する文献は39件であった。その内、授業方法・技法導入に関する文献13件（表1 - ①，1 - ②）であり、能動的学修（アクティブラーニング）の技法として、【ポートフォリオ】，【PBL-T, TBL, IBL】，【協同学習】，【ブレンディッドラーニング型授業】の4つに分類された。授業方法を工夫し実践した評価に関する文献7件（表3），課題シートの活用5件，振り返りシートの活用4件，社会人学生対象3件，自己評価・レポート評価2件，OSCE科目評価2件，授業評価2件，システム評価1件であった（表4）。

講義・演習に関する文献の教科・科目による分類39件は、表4のとおり、基礎看護学の文献7件，成人看護学・老年看護学・母性看護学の文献はそれぞれ3件ずつ，小児看護学・在宅看護論・公衆衛生学の文献はそれぞれ1件ずつ，看護の統合の文献4件，OSCEの文献2件であった。その他12件の文献は学校により科目名称が様々であるため，その他としてまとめた（表4）。幅広い教科・科目の講義・演習で主体性を育むための授業方法の工夫，能動的学修（アクティブラーニング）としての授業方法・技法が導入され，その実践結果についてまとめられていた。

##### 1. 授業方法・技法導入に関する文献：13件（表1 - ①，1 - ②）

授業では，アクティブラーニングの技法としてポートフォリオ，PBL-T・TBL・IBL，協同学習，ブレンディッドラーニング型授業（表2）が用いられていた。その中で，ポートフォリオの技法では，予習・復習と自己評価・授業に関連した資料が1冊のファイルに綴られているため，学生自身が目標に向かって，主体的に取り組む活動となっていた。学生時代の取り組みが主体的に学び続ける基盤となっているのか評価していくことを課題とされていた（末永，2016）。チーム基盤型学習《TBL》は，グループワークでは，ほとんどの学生が自己の学習能力を確認し，学習意欲への動機づけとなっていた。しかし，グループで行うことに対して，やってもやらなくてもよいという学生がいることで，やりがいのある事前学習や課題の精選，学生のレディネスを踏まえたオリエンテーションの検討を課題であるとされていた（長尾，2017）。協同学習の技法では，責任を持って演習に臨み，自らの課題

を明確にでき，主体的な学びにつながっていた。しかし，担当項目は十分理解できても，他の項目について知識不足を感じており，担当以外の演習項目への取り組み方と演習後のリフレクションの方法，指導方法の検討を重ねることを課題とされていた（松下，2013）。ブレンディッドラーニング型授業では，教員の動機づけ方略に対して肯定的な反応を示しており，主体的な学習活動を促進させる一定の効果が見られていた。学生がどのようなやり方でどのような時に復習することが効果的なのか検討を重ねることを課題とされていた（鈴木，2013）。

##### 2. 授業方法を工夫し実践した評価に関する文献：7件（表3）

新しい学習システムを導入後，学生はグループ学習を通して学び，自己の援助を振り返ることができていた。そして，導入したシステムにおける学生の学ぶ意欲や行動についてさらに検討することを課題とされていた（河野，2017）。学生コーディネーター制を導入することで，技術や知識の習得に効果的であり学習意欲を高め，コーディネーター・学習者ともに主体的な学習促進となっていた。しかし，コーディネーターにかかる時間的負担感，コーディネーターと学習者間に生じる学習内容の差を軽減することを課題とされていた（井上，2016）。

##### 3. 課題シートの活用に関する文献：5件

抽象になりがちな公衆衛生の概念を具体的な実像をもって理解でき，演習目的に応じた評価方法を検討（今松，2016）。授業の学びに対する評価が高値であり学生は意欲的に取り組み，今後は，知識定着や授業内容に対する評価方法を検討（小口，2016）。問いの創出や行動化に繋がる思考過程を経験した。発表後のフィードバックの時間確保と多重課題を求める授業での教室を検討（大谷，2016）。具体的に説明する気づきがあった。ツール活用に戸惑いがありサポートが必要（岡田，2015）。災害看護の理解とともに必要な行動の理解と看護に繋がった（佐藤，2014）。

##### 4. 振り返りシートの活用に関する文献：4件

振り返り用紙を十分に活用できておらず，演習の振り返り方法を見直す必要性が示唆された（網木，2017）。自己効力感が高まったが，学生の認識や気持ちに合わせた関わりが必要（山下，2017）。皮下注射技術の特徴から必要な看護スキルが明らかとなり，技術の特徴に応じた学修支援が必要（宮崎，2017）。事前事後の自己評価を比較した結果，全てで有意な上昇が見られた（新妻，2016）。

##### 5. 社会人学生対象に関する文献：3件

社会人学生は社会人スキルが高く，他者からの学びや体験的な教育方法が有効（岡田，2014）。グループ

表1 - ① 授業方法・技法導入に関する文献 13件

授業方法	著者名 (3名まで) 発表年	研究目的	研究 対象者 領域等	研究方法	結果	
					明らかになったこと	課題
ポートフォリオ	末永由里 篠木絵里 林世津子 他 (2016)	科目「看護の統合と実践Ⅰ～Ⅲ」を履修した学生が得た学びを明らかにする	看護系大学 4年生11名 看護の統合と実践Ⅰ～Ⅲ	個別インタビューを実施	ワークシートでの可視化と一元化, 教員のフィードバック等により科目の狙いは達成できた	学生時代の取り組みが主体的に学び続ける基盤となっているのか評価していく
	久保善子 嶋澤順子 北素子 他 (2014)	ポートフォリオを用いて実施する看護総合演習Ⅰの学習効果を明らかにし, 学生が主体的学習態度を獲得するための教育のあり方を検討	看護系大学 1年生, 2年生 看護総合演習Ⅰ	無記名自記式質問紙調査 調査用紙にパスワード記載欄あり	総得点の比較では学年間に有意差は認められなかった。履修後, 総得点の平均値は有意に高くなった	JNU得点とSBOの項目だけでなく本学科の学生が必要とする多面的な教育評価を行なう必要がある
	坂田五月 (2013)	ポートフォリオを活用した授業実践として, ポートフォリオ作成による学習活動への影響を明らかにする	看護系大学 2年生 13名 基礎看護学	フォーカス・グループ・インタビューを2回実施し, 質的帰納的に分析	予習・復習等, 自己評価, 授業に関連した資料が綴じられた1冊のファイルを作成し活用することは, 学生自身が自己の目標に向かって取り組む主体的活動となる	基礎看護学の授業科目におけるポートフォリオの効果的な活用方法を検討する
PBL・T・TBL・IBL	宮部明美 鈴木玲子 常盤文江 他 (2017)	批判的思考態度, 社会人基礎力, グループ学習による課題解決能力の視点から, PBL・TとTBL混合教育プログラムの評価	看護系大学 2年次 129名 成人看護学(急性期)	PBL・TとTBLを用いた授業の開始前と終了後に自記式質問紙調査を実施	CTSNE(批判的思考態度尺度)より, PBL・TとTBLを組み合わせた授業は学生にとって主体的な学びを促進する働きかけとして効果的	PBL・Tにおけるグループの編成の工夫, 成績や知識レベルの向上になったかを検討
	長尾理加 大谷美香 余呉摩理子 他 (2017)	基礎看護学におけるチーム基盤型学習(TBL)を取り入れた効果を検討	3年課程看護専門学校 1年生119名 基礎看護学 講義	アンケート調査から検討	グループワークではほとんどの学生が自分の学習能力を確認し, 学習意欲への動機づけとなった	嫌ではないが, やってもやらなくてもという学生も多く, やりがいのある事前学習や課題の精選必要
	辻京子 (2015)	健康教育論Ⅰの授業にチーム基盤型学習(TBL)を活用した授業を試み, その成果や課題について考察	看護系大学 「健康教育論Ⅰを受講した学生」108名 健康教育論Ⅰ	学生の出欠状況・TBLにおける個人確認テストとグループ確認テスト, ピア評価, 自己目標評価	学生の学習到達度は概ね8割。学生はグループ学習やピア評価を導入することで自己の学習課題の明確化やグループ討議により, 知識を習得し他者の意見から学びを深めた。主体的な姿勢が身についた	グループの相互作用を観察し, チーム編成を变えることや, 教員が学生の学習効果を観察しながら授業内容を変更する
	黒田寿美恵 中垣和子 今井多樹子 他 (2014)	IBLを導入した看護過程演習における学生の主体的学修への影響を検討	看護系大学 3年次 60名 成人看護学 看護過程演習	IBLを導入し, 学生の自己評価・感想欄の自由記述を内容分析	グループワークによる学修がもたらす積極性・協調性・責任を果たす態度・学習過程での内発的動機づけや自己効力感の高まりに関連している	学生の学修が一定レベルは確保できたが, 理解の深化に向けた取り組みは不十分。個人に備わっている行動傾向という限界
新福洋子 五十嵐ゆかり 飯田真理子 (2014)	授業全体を通してTBLを使用した学習に対する認識を記述し, 今後の授業方法の改善点について検討	看護系大学 3年生89名 周産期看護学	授業に関する感想・意見を自由記載したものを回収し分析	TBLを用いることで, 主体的な学びの経験や, チーム内, チーム間ディスカッションを行った学生は自分にはない視野を含めた多角的な学びを感じた	教員がRTRの解説やフィードバックを行うことで, より安心した学習環境を提供	

表1 - ② 授業方法・技法導入に関する文献 13件

授業方法	著者名 (3名まで) 発表年	研究目的	研究 対象者 領域等	研究方法	結果	
					明らかになったこと	課題
協同学習	山口ひとみ 齋藤今日子 渡辺恵美子 (2015)	学生が患者に関心が向かず、情報の整理・統合にかなりの指導を要するため、演習方法にロールプレイと協同学習を取り入れた成果を考察	看護専門学校 1学年 38名 基礎看護学 看護過程の 演習	一般的自己効力感尺度を使用し比較関心度はアンケート自由記載し、分類	協同学習の導入した結果、学生間で解決していく過程が内発的動機となり教員から学生個人への指導なく学習目標に到達。ロールプレイは患者への関心を高めた	ロールプレイ導入の有無による比較
	嶋田真由美 (2015)	協同学習を取り入れたことによる、自己のアーティビネスを客観視し主体的に行動する機会に繋がったのか現状調査	看護専門学校2年課程 定時制1年生42名 基礎看護学I 第7～10回の講義	協同学習評価表とアサーティブ得点の日本語版RAS調査得点2回分	自己主張の程度を変えたほうがいいと考えた場合、行動化しやすい。「助言」などは行動化しにくい	クラスにより講義を受ける前の日本版RASの平均点が異なり、その影響はないか否か検証必要
	松下聖子 金城やす子 (2013)	ジグソー学習法を取り入れたことで学生の学びの体験を明らかにし、ジグソー学習法の効果と課題を検討	看護系大学 37名 小児看護学 技術演習	授業の振り返りレポートを質的統合法(KJ法)で分析	責任を持って演習に臨み、自らの課題を明確にすることができ、主体的な学びにつながった	担当以外の演習への取り組み方と演習後のリフレクションの方法、指導方法の検討を重ねる
ブレンディッドラーニング型授業	三宮有里 村中陽子 (2013)	eラーニング教材に復習用コンテンツを加えて授業時間以外にパターン学習を行った結果、学習状況や動機づけに効果をもたらしたのか検討	看護系大学 158名 課外科目 フィジカルアセスメント	学習状況や動機づけ方略に対する学生の評価を調査	教員の動機づけ方略に対して肯定的な反応をしており、主体的な学習活動を促進させる一定の効果があつた	学生がどのようなやり方でどのような時に復習することが効果的なのか検討を重ねる
	鈴木小百合 村中陽子 熊谷たまき 他 (2013)	ブレンディッドラーニング型授業を実施している効果を検証	看護系大学 89名 生活援助論	自己調整学習方略MSLQを検討	学習習慣が確立している学生はMSLQ(学習動機づけ方略尺度)が高く、予習・授業・復習といった学習課程を主体的にでき、自己効力感をも高めた	調査項目の学習状況に授業の取り組み方や予習・復習の習慣性を加えて検討。自己調整学習方略と自己効力感について追究

表2 授業方法・技法の概要

項目	技法の概要
ポートフォリオ	ポートフォリオとは自己評価のツール。自分のやったことを自分自身で俯瞰し評価する姿勢をもつことが成長のために不可欠であるという新しい教育への考え方がそのベースにある。指導者もポートフォリオで、その人の獲得した知識や、何ができて、何ができないのか、思考や課題解決プロセスなどを把握することができ、適切な支援や具体的な評価を可能とし、その人の成長をかなえる。「ビジョン」と「ゴール」を書いた紙(ゴールシート)をいつも見えるようにしておく(鈴木, 2014)。その人が目標へ向かう途中のエビデンスが綴じられた1冊のファイル(鈴木, 2006)。
PBL-T(Problem-Based Learning-Tutorial) TBL(Team-based Learning) IBL(Inquiry Based Learning)	アクティブ・ラーニングの1つとして学習者が事例に基づき問題を発見し、自分の力で課題を解決する問題解決型学習。PBL-Tは少人数で編成されたグループメンバーで問題を解決する。チューターがグループごとに関わることができる(宮部, 2017)。チーム基盤型学習(TBL)は、学生の能動的な学びを促し、自己解決力を高めると言われている問題基盤型学習(PBL)を、学生100名以上に対しチューター1名でも行える形にした学習法(長尾, 2017)。基本は学習者の責任性と判断力にあり、教育責任者によってプログラムされた作業を少人数グループで進めていく過程で、学習集団はグループからチームへと進化していく(辻, 2015)。IBLは能動的な探究活動が深い理解に繋がるといふ考えを基盤としている(黒田, 2014)。
協同学習	協同学習は、学生たちがともに課題に取り組むことにより、自分の学びと仲間の学びを最大限に高めようとする、小グループを活用した指導法である。ともに成長を願う学生たちが切磋琢磨しながら真剣に学習ともいえる。協同学習は単なるグループ学習の技法ではない。教育理論である。教育理論としての協同学習を理解した上で学習技法を活用すると大きな成果を得ることが出来る。協同学習を基盤とする授業では、授業内容に関わらず認知と態度の同時学習が生じる(安永, 他2016)。
ブレンディッドラーニング型授業	ブレンディッドラーニング型の授業は、学生が自分のペースで自由な時間にe-ラーニングを活用して授業の予習・復習を行うことができ、対面型授業を補完し学習効果を上げることが出来る(三宮, 2013)。

表3 授業方法を工夫し実践した評価に関する文献 7件

著者 (3名まで) 発表年	研究目的	研究 対象者 領域等	研究方法	学習 方法 技法等	結果	
					明らかになったこと	課題
河野かおり 板倉朋世 遠藤恭子他 (2017)	<自己学習-グループ学習-個別指導-自己評価システム>を導入後の学生の学ぶ意識と行動現状調査	看護系大学 1年次生 102名基礎看護学 演習	独自作成の(LMS)調査記述統計とカテゴリー分類	自己学習-グループ学習-個別指導-自己評価システム	新しい学習システムを導入後、学生はグループ学習を通して学び自己の援助を振り返ることが出来た	導入したシステムにおける学生の学ぶ意識や行動についてさらに詳細に検討する
駒井裕子 (2017)	学生が主体的に学習を進められる学習支援システムを構築すること	看護系大学 2年生86名 老年看護学領域 講義	講義終了後にシステム活用状況と動画教材に関するアンケート調査	12種類の動画教材と自己学習ノートを作成	動画教材は予習・復習として86.3%の学生が1~2回以上視聴していた	教材に関する配慮とし、主題が分かりやすい教材と学習ノート、アクセスしやすい環境等の利便性
井上福江 濱田維子 (2016)	学生コーディネーター制による沐浴技術演習の学びを明らかにする	看護系大学 2年生90名 母性看護学 演習	演習自己評価表をデータとし記述統計、自由記載は質的記述的分析	学生コーディネーター制	学生全員が沐浴技術や知識の習得に効果的であり学習意欲を高めた。コーディネーター、学習者ともに主体的な学習促進	コーディネーターにかかる時間的負担感の軽減、コーディネーターと学習者間に生じる学習内容の差を軽減
大谷順子 羽原美奈子 (2015)	老年看護学と在宅看護論領域にて共通事例を用いた講義・演習が看護実践力に結びつくのか検討	看護系大学 3年生54名 老年看護学 在宅看護論	演習時の学びのレポートをデータ化し分析	領域を超えた講義・演習	共通事例を用いることで理解の深まり、援助技術の獲得、援助指導、安全対策など学習効果が確認	演習評価の方法および振り返りなどをどのように時間確保していくのか演習自体の課題
吉田和美 川西美佐 岡田純子他 (2014)	上級生が下級生に看護技術を教える学習サポート制度について学生にとって有効か検討	看護系大学38名：上級生のべ67名、下級生のべ232名	上級生の学びから評価	学年の違う学生による学習サポート制度	適切な運営が評価され、本制度への期待が高まった	サポート内容の共有、主体的運営に向けてのシステム作りが必要
小林裕子 伴藤典子 (2013)	基礎看護学実習Ⅱの前に看護過程演習にチューター制を導入した際、教授活動自己評価尺度-グループワーク用-の調査	3年課程の看護専門学校2年次36名 基礎看護学 看護過程	教授活動自己評価尺度-グループワーク用-を分析	チューター制	チューターはグループ討議に参加し意見を述べやすい環境作り、学生がリラックスできる関わり、論点を整理し介入必要	グループ間で差異が出ない意見交換・主体的学習行動ができる学生を育てるためにチューター育成が重要
露木貴子 久保貴巳子 (2013)	講義内容のイメージ化を図るとともに実習を効果的にするために、講義間に演習を入れ、実習前に課題の提示や技術確認	看護専門学校 3年課程 3年生79名 母性看護学 実習前演習	母性看護学実習終了後に自由記述によるアンケート	講義と演習の工夫	学内演習について、練習できてよかったと意見があり希望者には練習の機会を設け学生の主体的な取り組みに繋がった	少子化や分娩の制限により沐浴回数や分娩数の減少により、少ない体験の中での実施できるよう検討必要

表4 教科・科目による分類

項目	件数
基礎看護学	9
成人看護学	3
老年看護学	3
母性看護学	3
小児看護学	1
在宅看護論	1
公衆衛生学	1
看護の統合	4
OSCE	2
その他	12
合計	39

※その他：成育看護1、健康教育論1、臨床コミュニケーション論1、診療に伴う看護方法論1、生活援助論1、老年看護学と在宅看護論との合同1、課外科目4、授業全般2



ワークを苦手だと思えるのは個別性によるものと捉え、自分の役割がどの程度評価に反映されているのか気にかけていた（井澤，2015）。自己洞察を促す指導が行われていた（渡邊，2014）。

#### 6. 自己評価・レポート評価に関する文献；2件

グループ学習や発表は、学生間の「考え方の違い」を発見し、グループでの活動を通して達成感に繋がり、学修意欲を高めた（石村，2017）。学生の課題を明確にして主体的に学ぶ機会を提供し、学生が評価者の立場で援助法を観察する機会となり、具体的な援助方法に細部まで目を向けることが出来た（伊藤，2015）。

#### 7. OSCE科目に関する文献；2件

学生シミュレーションセンターでの練習、グループ学習に参加した学生のOSCE評価得点は有意に高く、学生が自主的に学ぶ契機となった。グループ学習でまとめた紙面を分析し、多面的に評価し、より良い学習プログラムになるよう検討が必要（松本，2015）。学生は自己の看護技術の課題達成に向けて主体的な学びを行っていた。看護技術修得のプロセスを常に認識できるシステム作りの必要性が示唆された（釈迦，2017）。

#### 8. 授業評価に関する文献；2件

学生間で自らの経験を教材とすることで達成感に繋がる（小野，2015）講義中心の授業前期では、看護実践と授業の関連性を実感でき、演習中心の授業後期では、自信をつける授業の工夫によって学習意欲の維持・向上が図れる可能性が示唆され、ARCSモデルに基づく授業設計の課題が明らかになった（重年，2016）。

#### 9. システム評価に関する文献；1件

外部サーバーを新たに設置したVODシステムは、学外からもビデオコンテンツを閲覧したいという学生のニーズを満たし、簡便で効率よく看護技術を学べるツールとして活用。しかし、閲覧時の不都合や操作方法の困難さが課題である（平賀，2013）。

## V. 考察

文部科学省中央教育審議会答申（2012）を受け、新たな技法を用いた従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業、学生からみて受動的な教育方法ではなく、学生が主体的に考える力を育むことが出来るようにアクティブラーニングの要素を取り入れた授業が行われていた。アクティブラーニングの技法として、ポートフォリオ、PBL-T、TBL、IBL、協同学習、ブレンディッドラーニング型授業の技法を用いるだけでなく、シミュレーション演習・コーディネーター制・

グループワークなど授業の一部にアクティブラーニングの要素を取り入れた取り組みが行われていた。その中で、学生が主体的に学べるように一方的な講義形式ではなく、グループでの活動を取り入れた工夫がされていた。文部科学省中央教育審議会答申を受け、アクティブラーニングの普及に拍車がかかってからまだ年数が浅く、新たな授業方法として導入した効果について検討していくことを今後の課題としている文献から、継続的な取り組みの必要性が示唆された。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである（文部科学省，2012）で掲げられているように、一時的な学修に終始せずにコンピテンシー力を高め、生涯学び続ける基盤となるような学修への動機づけが獲得できるような授業の工夫が必要であると考ええる。

アクティブラーニングを授業に取り入れることで、学生が主体的に学修に取り組むことが出来るようになったこと、他学生の意見を聴くことで自らの学びを深めることに繋がっていた。しかし、グループワークを行う際、行わない学生に対しての意見から、学生が主体的に活動できるよう事前学習・課題の精選を含め授業の工夫が必要であると考ええる。

「学生が学習仲間と互恵の人間関係を形成しながら、主体的に、責任感と意欲をもって学ぶ」ことが可能で、「将来、看護職者として指導者として求められる資質・能力形成につながる」（緒方，2016）。授業を通して学び合う仲間がともに成長できる学修環境づくりが必要である。また、担当以外の演習項目への取り組み方と演習後のリフレクションの方法、事前・事後課題を精選した指導方法の検討が必要であると考ええる。授業にある一定の学修技法を用いることは統一できる面もあると考ええるが、幅広い科目で、アクティブラーニングの要素を用いた授業が行われており、他の授業との関連・効果も視野に入れる必要があると考ええる。

「生きる力」の射程は就学期間内（学校教育内）に留まらず、学卒後の社会人生活にまで及び、現実の中で「生きて働く力」として、生涯学習社会を前提とする能力に支えられている（原田，2016）。看護は一人だけの力では成り立たず、他者と連携を図り、チーム医療の中で活躍することが求められている。看護師として複雑な課題に適應できるコンピテンシー力である資質・能力を高めるために、主体的に学修した成果を、グループでの学修を通して、さらに深く学び得ることが必要であると考ええる。

「一方的な知識伝達型講義」では授業の大半は知識の内化に費やされ、外化といえ、記憶した知識を試験ではき出すことくらいしかなかったのに対し、アクティブラーニングは「認知プロセスの外化」を学習活

動の中に正当に位置づけた(松下, 2016)。学びが深まるように、授業方法を工夫することが大切であり、内化・外化ともに育む授業設計が求められている。

評価方法について今後の課題にしている文献から、実践したことを適切に評価し、検討していくことが必要であると考え。近年、看護教育において実践力を評価する方法として、パフォーマンス評価が注目されている。パフォーマンス評価とは、知識やスキルを実際に使いこなし、学習者の理解の様相を捉えようとする評価方法の総称である(西岡, 2016)。資質・能力のバランスのとれた学習評価には、多面的・多角的な評価を行うことが必要であり、教員からの評価だけではなく、学生の主体的な学びを育むことを支えることが出来るように、学生自身が行った自己の行動を省察できる評価方法についても検討する必要があると考える。

授業にアクティブラーニングの要素を導入することで学生は、意欲的に取り組み主体的に行動する効果がみられていた。今後、大学教育の質的転換を実践していくには、アクティブラーニングという言葉だけが独り歩きしないような授業設計が求められている。そのため、学生の主体的な学修を支えるための教育方法の転換と教員の教育能力の涵養が必要である。実践した授業について評価を適切に実施するとともに研究能力を向上させることが必要であると考え。学修効果の測定、やりがいのある学修課題の精選、コーディネーター・チューター育成などの課題も見出されており、今後は、実践した結果から、アクティブラーニングの授業を受けた学生が主体性を育むことに関与しているのか研究を行い、学生自らが主体的に『学びたい』と思えるよう、より良い授業の構築に努める必要があると考える。

## VI. 結論

学生が主体的に学べる授業方法の工夫として、能動的学習(アクティブラーニング)を取り入れた授業が取り入れられており、その中で、学生は意欲的に取り組み主体的に行動する効果がみられていた。今後の課題として、学修効果の測定、評価方法、やりがいのある学修課題の精選、コーディネーター・チューター育成などが見出されていた。2012年文部科学省中央教育審議会答申(文部科学省, 2012)で掲げられているように、看護師として、複雑な課題に対応できる資質・能力を高めるために、学生時代の取り組みが主体的に学び続ける基盤となっているのか、現在実践している授業を適切に評価することが求められる。主体的な看護学生を育むことができるように、更なる授業方法・

評価方法の検討が課題であることが示唆された。

## VII. 利益相反

開示する利益相反はなし

## VIII. 引用文献

- 網木政江, 久野暢子, 藤澤怜子 (2017): 基礎看護技術教育での学生の学びの深まりを促す教育的介入策を探る 振り返り用紙の分析, 山口医学, 66 (2), 113-122.
- 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 (2016): 高等教育に関する質保証関係用語集 第4版, p.54
- 今松友紀, 藤田美江, 横山史子, 他 (2016): 看護基礎教育における Active Learning の手法を用いた公衆衛生教育の試み, 創価大学看護学部紀要, (1), 25-36.
- 井上福江, 濱田維子 (2016): 沐浴技術演習における学生コーディネーター制導入の試み, 純真学園大学雑誌, 5, 63-74.
- 石村珠美, 江原美智子 (2017): 在宅看護概論の教授方法に関する研究「在宅ケアを支える制度と社会資源」の単元に紙上事例を用いたグループ学習の学び, 日本在宅看護学会誌, 5 (2), 70-78.
- 伊藤てる子, 平賀元美, 長嶺めぐみ, 他 (2015): 成人看護学実習に向けた実習前技術演習の開発(第2報) 技術練習レポート記述内容の分析から, 群馬医療福祉大学紀要, 3, 13-22.
- 井澤晴美 (2015): 主体的に学習できる社会人学生が教員に臨む指導, JCHO東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校紀要, 1 (1), 1-8.
- 一般社団法人 日本看護系大学協議会事務局 (2018): 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標.
- 原田信之 (2016): ドイツの協同学習と汎用的能力の育成 持続可能性教育の基盤形成のために, あいり出版, 東京, 7-13.
- 平賀睦, 森本千代子, 百田武司, 他 (2013): 看護技術力の育成に向けた学習支援環境としての Video on Demand (VOD) システムの評価, 日本赤十字広島看護大学紀, 13, 41-48.
- 小林裕子, 伴藤典子, 飛田昌子 (2013): テューター制導入後の看護過程演習の評価「教授活動自己評価尺度」を用いた看護学生とテューターの評価分析, 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 9, 1-14.
- 小口多美子, 井上ひとみ, 田甫久美子, 他 (2016): 主体的学修能力を育成するための授業内容の改善の

- 試み, 獨協医科大学看護学部紀要, 9,61-71.
- 駒井裕子 (2017): e-learningによる主体的学習の支援環境の構築とその有用性の検討 対象学生によるアンケート調査の分析から, 常盤大学健康科学部研究報告集, 4 (1), 85-93.
- 河野かおり, 板倉朋世, 遠藤恭子, 他 (2017): 主体的学修を促す基礎看護技術演習における学ぶ意識と行動の現状<自己学習-グループ学習-個別指導-自己評価>システムを導入して, 獨協医科大学看護学部紀要, (10), 67-78.
- 久保善子, 嶋澤順子, 北素子, 他 (2014): ポートフォリオを用いた主体的学習態度獲得を支援するための教育の評価, 東京慈恵会医科大学雑誌, 129 (3), 119-127.
- 黒田寿美恵, 中垣和子, 今井多樹子, 他 (2014): Team-based learningを用いて周産期看護学(実践方法)を学んだ学生の認識, 人間と科学, 県立広島大学保健福祉学部誌, 14 (1), 51-66.
- 松本由恵, 岡田純子, 百田武司, 他 (2015): 看護実践能力育成のための学習プログラムの評価 学生の学習環境の活用状況とOSCEの評価得点の比較, 日本赤十字広島看護大学紀要, 15,43-50.
- 松下佳代 (2016): ディープ・アクティブラーニング大学授業を深化させるために, 勁草書房, 東京, 2-9.
- 松下聖子, 金城やす子 (2013): ジグソー学習法を取り入れた小児看護技術演習における学びの体験と今後の課題, 名桜大学紀要, 18,77-90.
- 宮部明美, 鈴木玲子, 常盤文枝, 他 (2017): 看護専門科目におけるPBL・T・TBL混合型教育プログラムの評価, 保健医療福祉科学, 6,10-15.
- 宮崎素子, 所ミヨ子, 今野葉月, 他 (2017): 看護学生の皮下注射技術修得度と看護技術修得のための学習スキルとの関係, 埼玉医科大学短期大学紀要, (28), 59-69.
- 文部科学省 (2012): 新たな未来を築く為の大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け, 主体的に考える力を育成する大学へ(答申)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm), 2018年6月20日閲覧
- 文部科学省 (2017): 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の習得を目指した学修目標～, 大学における看護系人材養成のあり方に関する検討会  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/1397885.htm), 2018年6月20日閲覧
- 西岡加名恵 (2016): 看護教育におけるパフォーマンス評価 あじさい看護福祉専門学校における実践, 教育方法の探求, 19,1-10.
- 長尾理加, 大谷美香, 余吾摩理子, 他 (2017): 主体的な学習姿勢を育てる取り組み 学習支援に基盤型学習(TBL)を取り入れて(第一報), 愛知県立総合看護専門学校紀要, 11,21-33.
- 新妻規恵 (2016): 基礎看護セミナーにおける教育効果の検討, 三育学院大学紀要, 8 (1), 39-44.
- 緒方 巧 (2016): 看護学生の主体性を育む協同学習, 医学書院, 東京, 2-11.
- 大谷順子, 羽原美奈子 (2015): 領域を超えた共通事例展開の学習効果の検討 老年看護学活動論Ⅱと在宅看護論演習の連携, 旭川大学保健福祉学部研究紀要, 7,69-77.
- 大谷順子, 中川初恵 (2016): ICT機器やネットワーク環境を用いた老年看護学演習の効果, 旭川大学保健福祉学部研究紀要, 8,29-37.
- 小野晴子, 土井英子 (2015): 臨床コミュニケーション特論の演習過程における学生による授業評価, 岡山県看護教育研究会誌, 39 (1), 48-56.
- 岡田初恵, 大谷順子 (2015): アクティブ・ラーニング・commonsを活用した老年看護学の演習授業における学びの効果, 旭川大学保健福祉学部研究紀要, 7,59-67.
- 岡田摩理, 服部律子 (2014): 2年課程の看護学生の学びの特徴 思考力を高めるための試行的な授業における学生の反応から, 岐阜県立看護大学紀要, 14 (1), 37-48.
- 坂田五月 (2013): 看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 21,13-23.
- 佐藤節美 (2014): 災害の少ない地域の学生が主体的に取り組む災害看護の学習成果 東日本大震災から学ぶ災害看護, 日本看護学会論文集:看護総合, (44), 302-305.
- 三宮有里, 村中陽子, 熊谷たまき, 他 (2013): 主体的な学習活動に促進に向けたブレンディッド型授業の実践とその評価, 医療看護研究, 10 (1), 45-51.
- 重年清香, 真嶋由貴恵 (2016): 基礎看護技術の授業にインストラクショナルデザイン ARCSモデルによる授業分析と課題, インターナショナルナースィングNursing Care Research, 15 (4), 97-106.
- 嶋田真由美 (2015): 基礎看護教育に協同学習を取り入れた教授活動による学生の学び 日本版RAS得点を利用して, 神奈川県総合リハビリテーション事業団厚木看護専門学校紀要, 5,7-9.
- 新福洋子, 五十嵐ゆかり, 飯田真理子 (2014):

- Team-based learningを用いて周産期看護学（実践方法）を学んだ学生の認識，聖路加看護大学紀要，(40)，19-27.
- 謝花小百合，宮里智子，加賀いづみ，他（2017）：看護学士過程における客観的臨床能力試験への学生の主体的な取り組み，沖縄県立看護大学紀要，(18)，61-66.
- 末永由里，篠木絵里，林世津子，他（2016）：看護専門職として主体的に学ぶ力を育成する看護基礎教育における教育実践とその評価，東京医療保健大学紀要，11（1），37-44
- 鈴木小百合，村中陽子，熊谷たまき，他（2013）：看護大学生の自己調整学習方略と学習状況ならびに自己効力感の関連，日本看護学会論文集：看護教育，43,102-105.
- 鈴木敏恵（2014）：問題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法，教育出版，東京，24-26.
- 辻京子（2015）：看護教育におけるチーム基盤型学習導入の試み，地域環境保健福祉研究，18（1），67-75.
- 露木貴子，久保貴巳子（2013）：母性看護学におけるカリキュラムの評価 知識と技術の統合を目指して，神奈川県立平塚看護専門学校紀要，(17)，23 - 27.
- 渡邊恵，鈴木玲子，常盤文枝（2014）：看護専門学校（3年課程）における社会人経験のある学生に対する教育方法の現状分析，日本看護学教育学会誌，24（1），55-65.
- 山口ひとみ，齋藤今日子，渡辺恵美子（2015）：学生が主体的に学習に取り組む教育方法の試み 看護過程演習にロールプレイおよび協同学習を導入して，竹田総合病院医学雑誌，41,19-21.
- 山下照美，小澤絹恵，嶋崎昌子（2017）：生活援助技術の自己練習前後における自己効力感の変化，松本短期大学研究紀要，(26)，65-73.
- 安永悟，関田一彦，水野正朗（2016）：アクティブラーニングシリーズ第1巻，アクティブラーニングの技法・授業デザイン，東信堂，東京，3-11.
- 吉田和美，川西美佐，岡田純子，他（2014）：看護技術力向上を目指した学習サポート制度における上級生の学びと本制度の課題，日本赤十字広島看護大学紀要，14,75-83.